

# 漁獲管理計画策定事業

村山達朗・為石起司

## 1 事業の目的

平成8年7月に施行された「海洋生物資源の保存及び管理に関する法律」に基づく TAC 制度により、島根県は国から配分を受けた魚種および島根県が独自に指定した魚種（エッチュウバイ）について漁獲限度量を管理するため、漁業種別配分、管理に関する諸事項を県計画に定め、これに従って資源の保存管理を行っている。本事業は、漁業実態、TAC の漁業経営への影響および需給動向について調査し、生物学的、経済学的に適切な県計画を策定するための調査を行うことを目的としている。

本年度は、島根県が独自に TAC 指定したエッチュウバイに関し、TAC指定の海域に含まれていない隠岐地区の漁業実態に関して調査を行った。

## 2 調査方法

本年度は隠岐地区のばいかご漁業の着業者から漁業実態について聞き取り調査を行った。また、操業野帳を配布し、漁場位置の把握を行った。

## 3 調査結果

本報告では、平成9年6月4日に西郷漁協会議室で行った聞き取り調査の結果を取りまとめる。

### (1) 漁場

かつては、白島西方から北西海域に漁場が集中していたが、最近はその海域での漁獲量は激減している。エッチュウバイ漁場の水深は190m～320m、ツバイ漁場は水深400m以上、ホッコクアカエビの漁場は水深500m～600mである。最近では、300m以上の水深で操業することはほとんどない。底質は泥場だが、瀬の近くは大型貝が多い。西郷地区の同業者間での漁場の使い分けは行っていない。沖底（かけまわし）との漁場競合が多く、韓国船は必ずいる。沖底が休漁期となる6月から8月の間は比較的自由に漁場を選択することが可能である。それ以外の季節は、3連以上かためて漁具を設置している。

### (2) 漁具

使用連数は8連で、1連当りの使用かご数は170～180個、ロープは幹縄が2,900～3,600mである。幹縄のロープ径は18～20mmで、かご間隔は17～20mである。かごの形状は石見地区とは異なり背が高い。アンカーは幹縄の両端だけに設置する。えさはイワシを袋に入れて使用する。マサバではエッチュウバイのかごへ入りが悪い。イワシとサバを混ぜると最も漁獲効率が低下する。

### (3) 操業形態

2日に1回出漁する。夜中前に出港して、翌日の夕方入港する。航海サイクルは12～13航海/月で、1連当りの操業時間は55分～70分である。

### (4) 選別方法と銘柄

銘柄は大・小・豆・赤（エゾボラモドキ）の4銘柄である。以前は銘柄「豆」は再放流していたが、韓国船が銘柄「豆」サイズを出荷し始めてから、西郷地区でも銘柄「豆」の出荷を始めた。容器は全て木箱で、1箱当たりの重量は10kgである。選別作業は船上で行われる。かごから船に設置してある選別台に漁

獲物を移し、そこで銘柄別に選別し、木箱に詰める。選別後、海水をかけて洗浄し、氷をかけておく。水槽の中に貝を入れて選別していたこともあったが、手間がかかり、海水を冷却する必要もあることから今は止めている。選別台の上にスポンジを設置したこともあるが、ゴミや貝がスポンジに付着し作業効率が低下することからこれも止めている。

#### (5) 漁獲物の出荷先と価格

漁獲物はほぼ全て境港の業者を通じて金沢市（石川中央市場）へ直接出荷する。銘柄「大」の単価が最も高く、季節的には冬が一番単価が高い。エッチュウバイ以外の漁獲物はミズダコが多少ある程度でモロトゲアカエビはほとんど漁獲されない。ツバイも最近はほとんど漁獲されない。

#### (6) 乗組み員数

乗組み員数は6人から9人で平均は7.5人であった。年齢構成は20代から70代まで幅広い。

#### (7) 主要経費

餌代は150～160万円／年、燃油代は37.5円×1200<sup>リットル</sup>×1.05／航海、氷代が4万円～7万円／航海である。販売手数料は漁協（西郷）が3%、金沢の石川中央市場が5.5%である。また、運賃・水切りを入れて約1割の経費がかかる。

大仲経費は餌代・氷・箱代・運賃・販売手数料・水切り代であるが、燃料費は大仲経費に入れる業者と、入れない業者がある。乗組員の給与は独身者で手取り24万円／月程度（税金・保険料控除後の金額）で最低保証は決めているが船毎に異なる。

かごは2000円／個で、ロープは100kg×58円程度である。漁具代は1連で約100万円である。漁具の損耗は年によって異なり、漁具被害が多い年は12連入れ替えたこともある。

#### (8) 漁船

使用している漁船は19トン型と29トン型で、材質はFRP、機関は三菱の720馬力とヤンマーの850馬力の2タイプある。船速は11～12ノットである。機関換装は約6年周期で、代船建造は18年程度で行うのが望ましい。代船建造費は1億円以上必要であるが、当面建造予定はない。

#### (9) エッチュウバイの資源状態について

昔は平均200箱／航海の水揚があったが、最近では80箱／航海程度である。特に大型の個体が減少した。隠岐島にはかつて10隻以上のばいかご漁船がいたが現在は4隻まで減少した。

#### (10) 韓国船について

韓国船による漁具被害が毎年発生している。多い年は、12連の漁具被害が発生したことがある。ばいかご、オッタートロール、底刺網が多いが、最近では底刺網が目立つ。底刺網は12～14mmのロープを使っており、漁獲対象は主にアカガレイである。漁具被害は以前は届け出をしていたが、損失補償などの措置がないため現在は放置している。